

平成 28 年度 第 1 回北海道総合開発委員会 議事概要

1 日 時：平成 28 年 7 月 12 日（火）15：00～16：40（KKR ホテル札幌 3 階「鳳凰」）

2 出席者：[委員] 山口委員 三輪委員 山本委員 内田委員 出村委員 長瀬委員 武田委員
島山委員 加藤委員 大賀委員 中村委員 高橋委員 能登委員（13 名）
[参与] 佐藤参与 安立参与 佐野参与 土田参与 北参与（5 名）

3 主な発言内容

- 北海道を支える産業として、観光に対する期待が非常に大きい。これだけ盛り上がっている観光の振興をちゃんと見る、あるいは舵取りをしていくということを考えていかなければならない。
- これからは輸出ということも盛んに言われているが、何と言っても国内の食料自給率が 39% ですから、まず国民の皆様にしかりと食料を供給する北海道にならなくてはいけない。やはり国民に国内の農水産物を食べていただくという視点で、我々生産者、農業界がどうやって取り組むかが課題。
- 雇用、働き方についていろいろな提言が出ているが、残念ながら、今、格差が広がる状況にある。改善していくことはそう簡単でないという現実もあるので、そういった現実もしっかりと見据えて、具体的にどう進めていくか、そういったことを是非お願いしたいし、私たちも是非協力していきたい。
- 少子高齢化が非常に問題になっているところであり、それに対してどのようにしていくかということが、特にこの 10 年が重要だと考えている。少子社会、人口減少、安心して子どもを産み育てるための医療上の問題は産科医と小児科医の不足によるもの。
- これからは「アジアの中の北海道」というビジョンを、学校での教育をはじめ、いろいろな世代の方への生涯教育や総合計画の出前講座などを通じて、是非、多くの道民の皆様と共有していただきたい。
- この計画をどこまで道民の方に周知して、なおかつビジョンを共有するかということが大事。実際これから選挙権を持つ 18 歳以上の若い人が、こういうことを私は知らなければいけないと思う。
- 計画の実施にあたり「連携」は 1 つの方法として重要だが、ややもすれば、どこに責任があるか分からなくなるので、「連携」には「協働」という視点を是非併せていただきたい。
- 数値目標を持つということは非常に重要だと思っているが、数値はあくまでも成果を測る指標の 1 つであり、数値だけで判断すると、本質を間違っで見えてしまうことがあるかもしれない。目標を実現するために、道として具体的にどのような取組を積み重ねたのか、そして、企業や団体、道民の人達が取組を加速できるよう、道として、どのような取組をしてきたか、地域として、振興局が中心となって、どういう取組をしてきたかをきちんと見せていただきたい。